

## ぎふ農業・農村を支える人材育成

### ■地域計画 担い手を中心とした話し合いがスタート

耕作放棄地の拡大が懸念される中、農地を誰がどのように利用するかを定めた地域計画の作成が求められている。

1月は高山市の丹生川、清見、上宝の各地域で、担い手らが集まり、地図を見ながらゾーニングの検討や、農地の賃借料等のルールの見直し、将来の農業の方向性など話し合いを開始した。

今後は地域ごとに課題を整理しながら、令和7年3月までに地域計画の作成を進めていく。



【耕作されなくなった水田】

### ■ひだあねさ特産グループ instagram 研修の開催

1月15日、飛騨地域の6次産業化加工グループ「ひだあねさ特産グループ」が、高山市内でinstagram研修を開催した。

飛騨古川で活動を行っている「オフィスぼんぼり」の大橋明日香氏を講師とし、会員6名が参加した。今回の研修は、会員の「自分達の商品を、SNSを使って効果的にPRしていきたい」という思いをもとに開催され、参加した会員は「研修に参加して操作方法がわかると楽しくなってきた」と話した。

農業普及課では、引き続き6次産業化や女性農業者の活動について、関係機関と連携し支援していく。



【instagram 研修会】

### ■担い手 高山市青年等就農計画審査会が開催される

高山市は1月26日に、令和6年4月から就農予定の2名（品目：夏秋トマト、有機栽培）を対象とした青年等就農計画審査会を開催し、農業普及課は審査員として出席した。

対象者2名は、指導農家や支援機関の助言・指導を受けながら作成した就農計画及び収支計画に基づき、目標や将来の構想について語った。審査員からは、計画した収量や農業所得が実現可能な数値であるか、資機材・諸材料費・労働力が適切であるか等の質疑が行われ、2名は根拠や自身の考え方を明確に回答していた。

農業普及課は、2名の就農後も、早期に栽培技術・経営管理能力を習得できるよう継続して支援を行う。



【就農計画を厳しく審査】

## ぎふ農畜産物のブランド展開

### ■飛騨高山あぶらえ研究会 あぶらえ料理教室を共催

1月13日、飛騨農林事務所が主催となり、「飛騨高山あぶらえ研究会」と共催で、一般の親子を対象に高山市内であぶらえ料理教室を開催した。

当日は未就学児～中学生とその親合わせて18名が参加し、あぶらえを炒るところから調理をはじめ、「あぶらえ汁」と「あぶらえを使ったおはぎ」を作った。完成した料理はどちらも「美味しい」と参加者に好評だった。

農業普及課では、引き続き6次産業化や伝統料理の普及活動について、関係機関と連携して支援していく。



【あぶらえを使った料理教室】

## ■水稲 飛騨高山おいしいお米プロジェクト初顔合わせ会議

1月19日、飛騨高山おいしいお米プロジェクトの新年初顔合わせ会議が開催された。飛騨高山おいしいお米プロジェクトとは、若者たちに美味しい米作りを継承し、飛騨を元気にすることを目指し、「米・食味分析鑑定コンクール」で金賞を受賞した生産者等を中心に立ち上げた組織である。

令和5年度はプロジェクトのメンバーが「飛騨の美味しいお米・食味コンクール」で13名、「米・食味分析鑑定コンクール」で12名と数多く受賞し、成果を報告した。農業普及課からは、令和5年の栽培状況の振り返りと令和6年の栽培管理における注意事項の説明を行った。

農業普及課では、今後も良食味米の生産が継続できるように栽培技術情報の提供等の支援を行っていく。



【米・食味分析鑑定コンクール】

## ■夏秋トマト 飛騨就農支援塾トマトコースが開催

農業普及課は、12月から飛騨地域農業再生協議会が開催している飛騨就農支援塾トマトコースで、病虫害の対策などトマトの栽培技術や、持続的な経営に向けGAPについて講義を行っている。

その一環として、1月25日には青年農業士を講師に招き、出前講座（リモート併用）が開かれた。講義では、自身の経営方針や失敗談等、今までの経験から学んだ営農の心構えについて語られた。研修生らは就農をイメージした質疑応答を熱心に交わした。

農業普及課では、来年度も飛騨就農支援塾トマトコースで講師を務め、研修生の経営開始を支援していく。



【青年農業士との質疑応答】

## ■夏秋トマト 部会員を対象とした個別面談を実施

農業普及課は、11月～1月にかけてJAひだ営農指導員と連携し飛騨蔬菜出荷組合トマト部会員を対象に個別面談を実施した。

時期別の出荷量や果実品質など栽培を振り返るとともに、栽培状況や個別事情に応じて次年度の改善事項を協議した。

今年度は、特に品種の切り替えに応じた栽培方法に関する相談が多く、適正な灌水・施肥量について説明した。また、高温期の果実品質向上に向けたマルハナバチの導入や、還元土壌消毒の実施等も推奨した。

今後は個別面談内容を整理し、個人個人に合った普及指導を行っていく。



【改善事項を協議】

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■大豆 古川町大豆生産組合が反省会議を開催

集落営農で組織する古川町大豆生産組合は、1月25日に今年度の反省会議を開催した。

農業普及課からは今年度の大豆の作柄を説明した。栽培面では、は種期の降雨や生育盛期の高温少雨で管理に苦労した。収穫期には降雪などで収穫が遅れたり、子実の水分が高く乾燥調製に手間取ることとなった。特に一部の地域では、高温時の降雨で病気が広がり大きな減収を招いた。

農業普及課では、今年度の反省点を生かした病虫害や雑草に関する対策を周知し、品質と収量の向上を図っていく。



【今年多かった腐敗粒】